

『日本のお金持ち研究』

橋木俊詔・森 剛志著 (日本経済新聞社、2005年3月)

経済学部専任講師 森 剛志

世にある書物には3つのタイプがある。読んで得した本、読んで損した本、読んで意味のわからない本、である。学術書の中には、大変価値があるにもかかわらず、読んで意味がわからず、一般の人々には内容が伝わりづらいものが多いのが現実である。しかしながら、本書は学術書であるにもかかわらず、出版されるや否や飛ぶように売れた。京都大学経済学部の名誉教授である伊東光晴先生には、毎日新聞(2005年5月22日)の書評欄で「なによりも、すらすら読めて面白い」と書いてもらえた。一経済学者として、誉れに思う。私の新ゼミ生全員に、この本を読んで3000字程度の書評を提出することを課題とした。ある学生から「この本を読んでお金持ちの実態を知って少し得した気分であるし、とても面白かった。」と書評していただいた。しかし、一方でインターネット上では読んで損した本という指摘も散見し、その都度傷心の思いになる。評判はさておき、本書を創作するには根気と時間がかかった。

本書を仕上げるのに、約2年かかった。日本中の1億円以上の年収の人々(約6000人)すべてにアンケート用紙を配布し、インタビューをさせて頂ける方々には、一軒一軒回って、1人1時間程度かけて話を伺った。しかしながら、得られた結果は筆者たちが期待していたように価値あるものであった。日本の1億円以上の年収の人々の職業は、表-1に示したように、企業家(31.7%)が最も多く、次いで医師(15.4%)であった。アメリカでは弁護士の億万長者が医師よりも多いのに、日本では弁護士のお金持ちはほとんどいないのである。つまり、日本のお金持ちの職業トップ2は、「企業家」と「医師」ということである。また、医師は全国くまなく存在することも特徴である。

図-1は、都道府県別ごとに「企業経営者」と「開業医」の割合をグラフに表した。つまり、

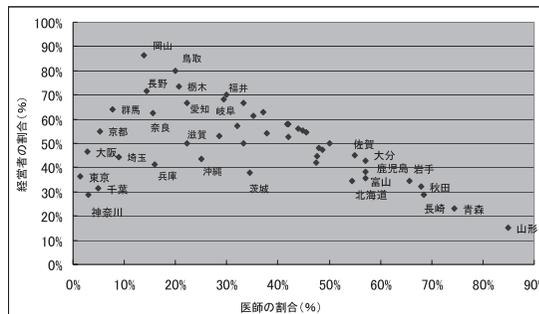


図-1 都道府県別の経営者と医師の割合

出典：国税庁『全国高額納税者名簿』(2001年度)より作成。

(注)それぞれの職業の割合がどちらも50%ずつである県は図が見にくくなるため除いてある。

縦軸に「企業家」と「経営幹部」を合わせたものを都道府県ごとの「経営者」の割合としてとり、横軸には開業医の比率を「医師」の割合としてとった。結果は右肩下がり散佈図となっており、開業医の割合が多く、「経営者」の割合が少ないのは、山形、青森、長崎などの地方であることがわかる。つまり、地方では医師の億万長者が多いわけである。山形県などは高額納税者のうち80%以上が医師であり、経営者の割合は15%程度である。

これに対して、東京、神奈川、千葉、大阪など都市部では、医師の割合が少ない。ただし、「経営者」の割合もそれほど高くなっていないのは、職業不明の「その他」の人数が多いためである。本書は「医師」「弁護士」「企業家」などの章も設けている。日本のお金持ちの平均資産額は54億円であった。お金持ちは愛車として、ベンツよりトヨタを好むという結果も得た。さらに詳細を知りたい方々は、ぜひとも一読をお勧めする。

表-1 高額納税者に関する職業別分布

	企業家	経営幹部	医師	弁護士	芸能人	スポーツ選手	その他	全体
東京以外	33.3%	13.9%	23.4%	0.3%	0.3%	1.1%	27.7%	100.0%
東京	28.9%	7.6%	1.4%	0.6%	3.1%	0.5%	57.9%	100.0%
全体	31.7%	11.6%	15.4%	0.4%	1.3%	0.9%	38.7%	100.0%

出典：国税庁『全国高額納税者名簿』(2001年度)より作成。